

野の花館だより

2010/秋号 / No.57

連日、猛暑日が続く日本列島、秋風が待たれる今日この頃…。この酷暑南国宮崎のほうがかほんの少し、和らいだようです。宮崎は畜産農家の口蹄疫の終息宣言もあり、・・・皆様には色々ご心配いただきありがとうございました。やっと私達にも普通の生活が戻り、ホッとしていますが、空っぽの畜舎を目にすると、本当にどうなるのかと行く末が心配されます。

野の花館では8月4日に全国高校総合文化祭の国際ボランティア部門・フィールドワーク「宮崎からの発信・国際協力による人づくりに学ぶ」の会場で幕あけ、青森、大分、県内の高校生が集まり、野の花館、土呂久・バングラデッシュ支援等を学んでゆきました。野の花館らしい、野の花館ならではの準備、もてなしができたと大好評でした。いろいろ端会、いろいろばたコンサートと高鍋町との関係を強化しつつ、秋の行事が始まります。

いろいろばた会 毎月第3火曜日に開催中

10月10日～17日 みそづくり

10月14日 10:30 めいりん保育園グリーンコープ助成 慰問演奏会第5回

10月24日(日)午後1時～・いろいろびらき2010・

・いろいろフォーラム・フォークコンサート他 (高鍋町主催)

11月3日(文化の日) 13:30開場 14:00開演



(ミール)ミニコンサート開催

ヴァイオリン&ピアノ・デュオ

ヴァイオリン(稲田竜斗) ピアノ(稲田由香里)

参加費 大人 1,000円 子どもは無料

11月13、14日(土日)演劇ワークショップ

宮崎で初めての、「インプロ=即興演劇」ワークショップです。(地域で演劇指導することができる力を身につけるワークショップで、演劇だけでなく、コミュニケーションスキルや発想力の向上など、教育や介護の現場でもちゅうもくされている)

日時：2010年11月13日(土)10時～20時

14日(日)10時～16時(原則として2日連続の参加)

受講料：5000円 定員：20名(先着順)

会場：野の花館

講師：横山仁一氏：堺雅人らと東京オレンジ旗揚げ全作品の構成・演出を手掛ける。

あの堺雅人とともに芝居を作っていた人を講師に自分自身の表現の仕方を学んでみませんか？ あなたの明日が変わるかも？！！

*10月23日に野の花館で行われる予定だった野外劇団楽市楽座

全国巡回公演は綾の手紬染織工房に変更になりました。

野の花館・第16回・平和を考える集い2010

第22回ミールミニコンサート(口蹄疫さよならコンサート)

平和への祈り”8月15日(終戦記念日)14時

夏の日差しがまぶしいこの日、暑い昼下がりにこうして集まって音楽を聴きながら平和への祈りをささげる・・・幸せなひと時でした。濱崎さんの悲しいお話を聞いて不思議に元気が出てきた・・・という方も・・・

この企画も芝居や音楽などいろいろに取り組みながら16回目でした。出演者のミールさんから次のメールが届きました。こんな風にささやかにいつまでも続けて行きたいと強く思いました。

終戦記念日の8月、音楽で平和の尊さや戦争の悲惨さを表現し伝えることが出来る機会を与えてくださり、有り難いことだなと思います。音楽のことも勿論まだまだ知らないことは多いですが、戦争のことについては私達は本当に勉強不足で、恥ずかしながら殆ど無知に近い状態だと毎回思われます。毎年8月に向けて少しずつ平和を訴える者として成長できたらと思います。





プログラム

幻想小品集OP.116より ブラームス作曲
朗読・「生贄の島」より 曾野綾子著
“2人の会” 濱崎けい子
無伴奏ヴァイオリンソナタ第1番「アダージョ」
バッハ作曲
無伴奏ヴァイオリンソナタ第3番「バラード」
イザイ作曲
エチュード 25-5 ショパン作曲
日本の夏の歌 夏の思い出、少年時代など
中国の太鼓 クライスラ-作曲

*参加者の声

音楽、子どもの遊ぶ姿、語らい、おいしい食べ物…。
野の花館は戦争から一番遠い「平和」のものであふれています。
私は戦争を知りませんが、戦争と無関係ではありません。
遠い国々で現在起きている紛争や戦争は、たぶん私の生活と繋がっています。
口蹄疫だって、私の生活と繋がっています。
「平和」のものに囲まれながら、目にみにくい戦争の加担者として、現在の私達は生きているのです。
平和のために自分は何ができるのか、その答えは65年前の夏、
もう戦争はいやだと思った、その想いをつなげていくことにあると思いました。 井上志保

*口蹄疫への応援メッセージ

皆様その後の御無沙汰をお許してください。
野の花館のご活動は送って頂くおたよりで頼もしく拝見、館を拠点に四季折々集う仲間たちと共に周りを取り巻く木立草々をなつかしんで居ります。と同時に田舎ではなかなか出会う機会もない芸術文化の香りに触れさせて頂く場としての貴重な存在を思わないわけにはゆきません。
それにつけても今回のおたよりは土からの悲痛な声にどんなマスコミの報道よりも胸打たれたことはありませんでした。いつもお邪魔しては入口の牛小屋でつぶらな瞳に飼い主の愛情を通しての親しみを抱きながら接したあの牛さん、時を経て代替りしたのかも知れないけれど、ともかく日野原さんちの牛でした。涙なしには考えられません、しかしそれに耐え、皆さんの温かい志に支えられて健気に明日に向かって立ち直られる心意気を拝見、少し安心もしたところです。
どうぞお身体にお気をつけられてあの農園の風の中に立ち向かわれますように。コフレ富士も私を通して宮崎の知名度高く皆さん御同情を寄せて下さっております。
富士市岩本 松丸まき子

第34回全国高校総合文化祭

国際・ボランティア部門 フィールドワーク

高文祭 ヒ素問題考える 国際・ボランティア部門



第34回全国高校総合文化祭(高文祭)の「国際・ボランティア部門」の一環で、年、旧土呂久鉱山の垂ヒ酸高千穂町の土呂久公害ステシア各地のヒ素問題を題材に国際協力を考える研究集会が4日、高鍋町の野の花館で開かれた。全国から集った高校生19人は、公害の歴史や海外の活動の重要性について思いを新たにしている。

バングラデッシュのヒ素被害について説明する川原さん(右)

中心となって、94年にアジア砒素ネットワーク(AAN)を結成。地下水汚染などによってアジア各地で発生しているヒ素被害の実態調査や支援活動をしている。

最も深刻な被害とされるバングラデッシュのAAN事務所で、職員の指導にあたり、川原一之さん(63)は、現地に建設中のヒ素センターと紙芝居などの啓発活動に熱心。「若い頃から志を持ち、忍耐強く困難にぶつかってほしい」と語った。

五ヶ瀬中等教育学校(五ヶ瀬町)に在学中、授業の一環で土呂久公害を知り、中学生向けの冊子を作成した長崎大1年の浜本志穂さん19人は、高校生に公害の歴史を説明し、「異質なものを受け入れ、自分から行動する」ことが大事」と呼びかけた。

青森縣三戸町の三戸高3



年、戸紀乃さん17は、ヒ素を学んだ。今後も学習を素という名前すらよく知らなかつたが、皮膚がんなどを引き起こす恐ろしい物質だ。

- 1部 野の花館と土呂久 則松和恵(事務局)
- 土呂久公害を伝える 濱本志穂(長崎大)
- 郷土料理を味わう 黒木淑子(野の花館)
- 2部 世界の飲料水問題 高校生(8校)
- 青森三戸高、八戸高、大分上野丘高、
- 宮崎宮崎工業高、高原高、延岡工業高、
- 宮崎学園高、妻高、
- バングラデッシュのヒ素汚染 川原一之(AAN)
- 異文化と国際協力 佐藤瑞穂(公立大)
- サリ 試着 多田かおり(AAN)



「若者に土呂久知ってほしい」

高校生、ヒ素汚染学ぶ

宮崎県高千穂町土呂久のヒ素公害とバングラデシュなどアジアのヒ素汚染を題材に、国際協力を考える研修会が4日、高鍋町の野の花館であった。第34回全国高校総合文化祭の「国際・ボランティア」部門の一環。県内外の高校生17人が途上国を襲うヒ素問題について学んだ。

高鍋で全国文化祭

日向市出身で高校時（19）が講演。「土呂久代に土呂久公害の教材（公害は近隣で起きたのを一人で作った長崎大）に何も知らず、教育も1年の濱本志穂さん 十分でないと思つて教



バングラデシュのヒ素被害を紙芝居で紹介する高校生
—高鍋町の野の花館

材を作った。若者が土呂久を知っていくことが大事」と訴えた。土呂久公害の裁判で被害者を支援し、現在はバングラデシュのヒ素汚染問題に取り組む川原一之さん(63)は、現地の飲料水が池や川の水から、安全なはずの地下水に代わってヒ素被害が発生した経緯を紹介。「地層から溶け出すヒ素が井戸水を通して人体を汚染した。それがアジアに広がっている。問題解決に若い力を貸してほしい」と呼び掛けた。参加者はグループ討議し感想をまとめた。大分県の大分上野丘高校1年の樋口織瑛さん(16)は「自分で教材を作った濱本さんの行動力に驚いた」。延岡工業高校3年の大里侑土さん(18)も「どういふ状況でバングラデシュのヒ素汚染が起きたのか、勉強になった」と話した。土呂久公害は1920年、旧土呂久鉱山の亜ヒ酸精錬などで住民や労働者が慢性ヒ素中毒になった。損害賠償裁判は90年に最高裁で和解が成立。裁判の支援者らがアジア砒素ネットワークを結成し、アジア各地のヒ素汚染解決に活動している。

南日本新聞より

終わった後の川原さんからのメール

雨の中をバスへいそぐ生徒たちの満足した表情から、会が成功裏に終えたことを確信しました。会がうまくいったのは、

- 1) 野の花館に蓄積されてきたパワー（料理作り、テントでの昼食、建物内の音響など）を十分にひきだせたこと。
- 2) 若い力（濱本さんの土呂久、瑞穂さんのバングラ交流、多田さんのサリー試着など）が参加者の心をとらえたこと。
- 3) 妻高校の生徒が努力（司会、「世界の飲料水問題」の発表とクイズ、フリップチャート＝紙芝居上演など）の成果をみせたこと。などがあげられると思います。

アジア砒素ネットワークの活動を紹介できたのはうれしいことでしたし、野の花館のもつ魅力を再確認させられた一日でもありました。妻高校の生徒さんをねぎらってあげてください。

古賀先生から

本日は、様々なご配慮をいただきましてありがとうございました。

バスの到着が遅れてしまい、ドキドキした始まりでしたが、無事、定時に終了できてホッとしております。今回担当した妻高校の生徒4人は、非常におとなしい性格の生徒です。しかし、準備や当日の司会など、できる限り自分たちのアイデアで進めさせ、終わったあとの4人の表情は達成感で満ち溢れていました。本当にいい経験をさせていただいたことを改めて感謝申し上げます。

グリーンコープ助成 福祉施設への慰問演奏会開催事業 宮崎大学医学部附属病院(6/3)

宮大付属病院
「院内コンサート」
病気忘れさせたい

入院中の富田さん発案

宮崎市清武町の宮崎大医学部付属病院に入院する富田信二さん(47)＝同市川口を中心に演奏、集まった患者を元気づけようと発案。患者や家族ら約120人がし、院内コンサートは3日、同病院の旧ロビーであった。高鍋町のバイオリン奏者稲田竜斗さん29と妻



入院中の富田さんが、ほかの患者のために発案した院内コンサート

顔の少ない周りの患者を見るたびに「一瞬でも病気を忘れさせたい」と感じていた。「自分も大好きな音楽なら息抜きできる」と、知人に相談。そこから共感する人々が数珠つなぎで広がり、県内で慰問コンサートを展開する稲田さん夫妻に話が伝わった。

院内コンサートでは、稲田さん夫妻がクライスラー「中国の太鼓」やピアソラ「リベルタンゴ」といったクラシックをはじめ、坂本九「見上げてごらん夜の星を」などポピュラーソングも織り交せて8曲を披露。観衆は笑顔をつほしたり、涙を流したりしながら静かに聞き入っていた。

入院患者の後援まゆみさん(日南市)は「コンサートには行けないと思っていたので、生の演奏を聴けて感動した。明日からも頑張れる」と満足。富田さんは「人と人のつながりのおかげで開催することができてうれしい。患者はみんな表情が良かった。毎日つらく大変だけれど、きつと治療にも専念できると思う」と話していた。

石井記念友愛社(8/2)

この度は素晴らしい音楽をプレゼント下さいまして、ありがとうございました。非常に暑い中でしたが、暑さも忘れて、子供達は聞きほれていました。口蹄疫で牛3頭を失った後でもありましたので、心のいやしにもなりました。

石井記念友愛社 児嶋草次郎



石井記念にっしん保育園(8/23)



石井記念やまばと保育園(8/26)



演奏曲目

中国の太鼓、ウィーン風小行進曲(クライスラー)、メロディー(チャイコフスキー)
リベルタンゴ(ピアソラ)、ジブリメドレー、踊る子猫、日本の季節の歌 他...

育児だより

* 伊藤兄弟 *

伊藤 心平

それは別に意図したわけではなくて、電車好きの5年生の夏勢の夏休みの思い出にどこかに鉄旅に連れて行きたいなあ、とか、だったら土日は混むから・・・、などと考えた結果、そうなったのだ。

8月9日、長崎。

直前に押さえたホテルが、これも偶然に爆心地のすぐ近くのホテルセントポール。鈍行や船を乗り継いで、8日の夜に長崎入り。9日は朝8時半から開く原爆資料館に早々に入った。

「怖そうだから30分で出て後は観光する」と言っていた夏勢だったが、結局2時間見て回った。

僕も長崎は仕事で一度来ただけで、原爆資料館は初めて。

広島の資料館に比べると、壊れた教会の遺物などが妙にきれいだったり、リアルな再現人形みたいなものがないし、建物も比較的新しくてきれいと言うこともあって、思ったほど怖く感じる作りではない。わりと客観的な展示に思えた。それにしても、けっこう基礎的な所が今一わかりにくいようにも思えた。

それでも、夏勢にはけっこうショックだったようで、後で、「怖くて眠れない」って。

原爆投下時間の約30分前。

資料館を出て、爆心地の公園の方に下りていくと、公園のあちこちで様々な団体が集会を開いている。公式な集会は少し離れた平和祈念公園の方で開かれているので、こっちは民間の集会所って感じなのかな。団扇太鼓をたたいて題目を唱えているのは、日蓮宗系の団体だろうか。後ろの方に観光とおぼしき外人と一緒に座り込んで太鼓をたたいている。

一方で、オープンマイクといって、何かひと言メッセージを呼びかける、昔で言えばヒッピー的なグループがいる。誰も近づこうとしないのだけど、(いや、僕も近づかなかった一人ではあるのだけど、) 徒党を組んでいないということでは一番まともなんじゃないかとも思った。

しかし、全体で見ると、なんともバラバラで、奇妙な感じ。

夏勢はすっかり嫌気がさして、もう帰ろうと言うが、時間まではとんだめて、しばらく待つ。公園の下の水路の所に、原爆がれきの地層が保存されている。被爆後の押しつぶされた状態が生々しく残っている。

やがて、平和行進をしてきた原水禁の団体が労組の旗幟を立てて公園に続々と入ってきて、爆心地の碑の周りをぐるりと取り囲んだ。

やがて、11時2分。黙祷。

夏勢も、どこで教わったのだろうか、黙祷している。しかし、僕は、空を見上げていた。

ここは、爆心地。

11時00分頃、もしかしたら遠くから爆音が聞こえてきていたかも知れない。

11時01分頃、すでに爆弾は高度1万メートルのB29から離れていたかも知れない。

11時02分、僕の頭の真上で火の玉が炸裂し、その光は一気に長崎の町を照らし、その次の瞬間、猛烈な爆風と放射能が押し寄せてきて、僕の体は吹き飛ばされる……。そして、数時間後、さっき見たがれきの地層がここに残されるのだ。

被害者の冥福を祈るのは、目を閉じて軽く下を向く、黙祷という形式。

でも、今日、僕は同じ場所、同じ日時にここに来ているのだ。

今日は天気はときどき小雨の曇り空で、65年前とは違ったけれど、思いを馳せるには特別の時間だ。・・・

かんきつ姉弟*

金丸 智子

夏が始まった頃、朔は水に顔をつけることができず、だから水にザブザブいくこともなかった。ところが、プールも回数を重ねるごとに平気になり、目もあけられて、いつの間にか数mは進むようになった。その上、自分から頭を洗えるようになる、というオマケ付き。時間が経てば出来る様になるのはわかっているんだけど、何かをする時、必ずと言っていい程文句が出る。こいつはビビリだなあ。

小学生の夏休みはラジオ体操で始まる。久々にちいにおつきあいて身体を動かしているのだけれど、案外忘れていない自分にビックリ。そしてラジオ体操を知らない子供達にもっとビックリ！やっぱり夏の風物詩たる!!もっと頑張ってくれよ。体操が終わると軽くごはんを食べて宿題。そのうち友達からのお誘いがある、日が暮れるまで遊びまわっている。これこそ、日本の小学生よね！何をするでもないけど、毎日元気で遊べるのが何よりだなあ、と思えるこの頃。

余談ですが...

長女は陸上に力を入れていて、来年の目標は九州大会だそう。頑張って記録をのばしてほしいものである。はい！

事務局日誌より

6/11(金)19:00～ 6月定例会
6/15(火)19:00～ いろいろ端会
7/17(金)19:00～ 7月定例会
7/20(火)19:00～ いろいろ端会
7/25(土)10:00～ 高文祭りハ-サル
8/4(水)8:30～16:00
全国高等学校総合文化祭
国際・ボランティア部門
8/7(金)19:00～ 8月定例会
8/15(終戦記念日)14:00～
平和を考える集い2010
第22回 ミルミニコンサート
8/17(火)19:00～ いろいろ端会

これからの予定

9/7(金)19:00～ 9月定例会
9/21(火)19:00～ いろいろ端会
10/10～17 みそづくり
10/14(木)グリーンコープ助成第5回慰問演奏会
石井記念めいりん保育園
10/24(日)13:00～ いろいろびらき2010
11/3(文化の日)14:00～
第23回ミールミニコンサート
11/13(土)10:00～20:00
11/14(日)10:00～16:00 演劇ワークショップ

宿泊ノ-ト～野の花館さん

いろんな風の吹くところ、暖かい人たちの心の風が吹き、元気ある人々の風、やさしく心温まる風を感じました。夜は本当のさわやかな風が、100年以上の歴史を過ごした建物の中をかけ抜け、体も休めてくれました。

イノシシ肉や季節の野菜たちをおいしく頂かせていただき本当にありがとうございました。人生の迷いの時期にいますが、いろんな人達との出会いはかけがえのないものでした。本当に有難うございました。

全国の高校生のボランティアイベントに少し参画出来たことも良い思い出になります。

2010.8.4. 京都府京田辺市 佐々木章文

野の花館へのご支援感謝します！

2010年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。

(10.6.1.～10.8.31.受け入れの方々)[順不同、敬称は省略させていただきました]

石崎諭、石崎春江、稲田千穂子、井上志保、岡山勇、柿原サエ、梶原やす子、川原志保、川南幼稚園、黒木至美、黒田宏、佐々木章文、杉本朋子、富田高明、富田快子、友成昌亮、永野寛、林真美
ありがとうございました。

〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664

ご意見ご感想ご質問などお寄せください。

phone & fax: 0983-23-0701

宛先: 特定非営利活動法人 野の花館